



# 肝炎について知ろう

～ 毎年7月28日は肝炎デーです ～

肝臓は、栄養分の生成・貯蔵、血液中の有害物質の代謝・解毒、食べ物を消化するために必要な胆汁の生成など、さまざまな働きをしています。そのため、私たちが生きていくには、肝臓が健康であることが大切です。肝臓の病気は自覚症状がないことが多いため、肝臓は「沈黙の臓器」といわれています。

今回は、肝臓の病気の中でも有名な、肝炎について紹介します。毎年7月28日は「肝炎デー」と定められており、世界中で肝炎の感染予防や正しい知識の普及に取り組まれています。

肝臓を健康に保つためにも、肝臓の病気について知っておくことが大切です。

## 1 肝炎とは

肝炎は、肝臓の細胞が傷つけられ、肝臓の働きが損なわれる病気です。肝炎が悪化すると、肝硬変や肝がんに移行する恐れがあります。

肝炎の原因は、多くがB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスへの感染で、どちらも血液や体液を介して感染します。

国内の肝炎の感染者は、B型肝炎が110万人～120万人、C型肝炎が90万人～130万人といわれています。

## 2 それぞれの肝炎の特徴

### 1) B型肝炎

感染した時期や感染した時の健康状態によって、一過性の感染で終わるものと生涯にわたり感染が継続するものに分けられます。

特に、出産時や3歳未満の乳幼児期に感染すると、長期的に感染が継続することが多いといわれています。しかし、平成28年から乳児にB型肝炎ウイルスワクチンが接種されるようになり、感染を予防することができるようになりました。

また、一過性の感染であれば、抗ウイルス薬などの点滴治療を受けることができます。

### 2) C型肝炎

B型肝炎と異なりワクチンはありませんが、近年、以前に比べ少ない副作用で十分な効果を得られる飲み薬が開発されました。

これにより、初回治療の場合、95%以上の方がウイルスを体内から排除できます。



以前は、輸血や血液製剤、注射器の使いまわしにより、身に覚えがないまま感染するケースが多くありましたが、医学の進歩によりこのような感染は減少しています。

しかし、現在も不意に他人の血液や体液に触れてしまったり、病院以外での針刺し（ピアスの穴あけ、入れ墨、覚せい剤を打つ際の注射器の使いまわしなど）をしたりすることにより、感染する人が後を絶ちません。

肝炎は、早期発見早期治療が大切です。身に覚えがない人も、健康診断や人間ドックの機会や医療機関を活用し、検査を受けてみてはいかがでしょうか。